

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2016年11月1日発行 第75号

タイ便り

タイ在住の西川会長からの便り

10月13日にプミポン国王がお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。タイに住むだれもがいつかは来ると覚悟していた「その日」。だれもが来て欲しくないと思っていた「その日」がどういう日だった振り返ってみたいと思います。

私はその日を意識したのは「その日」のほんの数日前のことでした。王族の方々が次々にお見舞いに駆けつけているというニュースが流れ、国王の病状に変化があったのではないかと噂があっと言う間に広まり、ほかにもそれを匂わせる情報が錯綜し、そろそろではないかと周囲がざわつき始めました。SNS上では国王の回復を祈るメッセージ、国王を愛しているというメッセージがにわかに目立つようになり、そうこうしているうちに、12日には国王の容態が不安定だという発表が正式に出され、このニュースはあっという間に日本のマスコミでも報道され始めました。

私の職場でも、もしもの場合はどうなるのか、休みになったりしないのかと、特に日本人の間で業務への影響を心配する声が出始めます。タイ人スタッフの間でも容態を心配する声は出ていたようですが、もしものことを話し合うのは憚れるような雰囲気があったようで、私も自分からこの話題に触れないようにしていました。

ただ、もしもの時にどう対応するか事務的な話をしないわけにはいかない思い、出張中のタイ人マネージャーに電話をかけました。しかし、彼女は「わからない。まだわからない。」と言うばかりで具体的な話はできませんでした。何しろタイにとっては70年ぶりのことですから、仕方ありません。

私は日本人教員向けの会議で、もしもの場合の対処プロセスだけを説明し、タイでは一般市民も喪に服し黒や白の服を着ることになるだろうから、そうした服を準備しておくよう話しました。

翌日、いつものように出勤し、勤務を続けたものの、時折インターネットで状況を確認するなど、なんとなく落ち着かない一日だったように思います。実は私はこの日の夜から東京に出張する予定で、その準備にも追われていたので、よりいっそう落ち着かなかったのかもしれない。

夕方になって、午後7時に重大発表があるというニュースが流れ、また臨時国会が召集され黒い服を着用するよう指示があったとのニュースが流れたことで、ついに「その日」が来たんだということを私たちは確信しました。給湯室で日本人がその話をしていると、たまたまそばにいた若いタイ人スタッフが泣き出しました。

私は、もしものときの対応を改めてリーダー格のタイ人と確認し、職場をあとにしました。

急いで家に帰り、荷物をまとめて私は空港へ向かいました。家を出たのがちょうど政府発表のあった午後7時過ぎのことでした。地下鉄の車内はいつもと変わりなく、みんなスマートフォンの画面を見つめています。おそらくみんなニュースを耳にしているはずですが、話す人はおらず、だれもかれもただただ電話を見つめています。いつもと同じ風景のような気もするし、ニュースを耳にして絶句しているようにも見えます。私自身も心のざわつきが拭えず、今見ている風景がいつもと同じなのか異常なのか判断がつきませんでした。1人の女性が目を真っ赤にして涙ぐんでいましたが、それがニュースを耳にしたからなのか、ほかに何か事情があったのか、それもわかりませんでした。空港へ行く電車に乗り換えて乗客に外国人が増えると車内の様

子はいつもと全く変わりありません。ただタイ人の口数が少ないようにも見えるし、いつもの通勤風景のようにも見えました。

空港に着くとタイ人のマネージャーから電話がありました。そしてこれからの対応を話し合いました。そして彼女はこう言いました。「昨日電話をもらって聞かれたとき、いつかこの日が来るとは思っていたけれど、本当のことだと信じたくなかった。だから、話を続けたくなかった。ごめんなさい」と。彼女は何かふっきたように、てきぱきとこれからの事務的な話をし始めました。

そして私は東京に向かいました。10月13日のことでした。

日本から戻ったあとのタイは会社も学校も通常通りに動いていて一軒何事もなかったかのようです。しかし、よく見ると、町を歩く人々は皆黒か白の服に身を包んでいます、いつもなら CM が流されている街中のスクリーンからは CM が消え、国王への哀悼メッセージに切り替えられています。また、ポップな音楽が流されていたレストランからは音楽が消え、コンサートなどのイベントは次々に中止になっています。一般市民には30日間喪に服することが求められ、約2週間経った今も状況は変わっていません。

「ニュースを聞いて涙が出た」という学生、「2、3日寝られなかった」という友人、「ニュースを聞いたときは涙は出なかったけど、改めて伝記を読んだらやっぱり涙が出てきた」という友人・・・話を聞くたびに、国王がいかにタイ人に愛されていたかを改めて感じさせられます。

こうした点については、不敬罪の存在や国王崇拜教育によるものだと指摘する声もあります。しかし、それにもましてプミポン国王ご自身の人格、功績がなければ、ここまで涙する国民はいなかったのではないかと思います。

日本に留学中の元学生がこんなメッセージを Facebook に載せていました。「私は日本人にときどき『タイ人は国王を尊敬しているの?』とよく聞かれます。そのたびに『そうだよ』と答えます。すると日本人は『どうして? 国王だから?』と聞いてきます。私は『国王だから尊敬しているんじゃないくて、いい人だから尊敬しているんだよ』と答えます」

タイ人はよく国王を「お父さん」と言いますが、首からカメラを掲げ、大学ノートとペンを片手に地方を視察するお姿、貧困撲滅のために自ら推し進められた数々の王室プロジェクト、国民とともにあろうとするエピソードの数々が国王が単に国王としてあがめられるのではなく、国民の「父」たらしめているのでしょう。

最後にこんなエピソードをご紹介します。

(<https://www.youtube.com/watch?v=zCF2jqYEnKw>)

今風の若い医者が軍の引率で山奥の村に往診に向かいます。しかし、途中で車が立ち往生してしまい、道なき道を村まで歩くこととなります。疲れ果て、機嫌を損ねた若い医師は沢を渡る途中で転んでしまいます。年配の兵士は手を差し伸べ「先生、大丈夫ですか?」と問いかけます。そして語り始めます。「この道はこれでもずいぶん良くなったんですよ。昔はもっとひどい道だったんです。・・・しかし、その道を一言も文句を言わずに登りきった方がいるんですよ。ご存じですか?」と。困惑した表情の医師は「だれですか?」と問います。その問いかけに対して、兵士は静かに「プミポン国王ですよ」と答えるのです。その答えを聞いて若い医師は何かを悟ったように歩き始めます。そして、最後には国王が歩く実際の映像が流れます。これは CM です。ですから若干の脚色はあるかと思いますが、こうした数多くのエピソードに接してタイ人は国王の愛を知り、国王を「父」と慕ったのです。合掌。

西川 弘達

報告1

～2016年度奨学金資料翻訳会～

藤井

今年も翻訳会を開催しました

7月の奨学金授与式で集めた奨学生の調書とドナー様への手紙の翻訳会を8月、9月、10月の3度にわたり名古屋のキャン事務所で開催しました。私は9月の翻訳会に参加させていただきました。運営委員を中心に日本人は5名、タイ人はボランティアの方が4名参加していただきました。いつものようにタイ人と日本人のペアに分かれての翻訳作業となりました。タイ人の参加者が流暢な日本語で子供たちの書いた調書と手紙を読み上げるのを、日本人の参加者が急いで書き取っていきました。ドナー様への手紙は、子供たちもいろいろと報告したいことがあるようで、長いものが多かったように感じました。終り頃には書き取る側から手が痛くなったという声も聞こえましたが、かわいい絵が寄せられた手紙があると、それを互いに見せ合ったりしながら、笑顔で翻訳作業ができました。タイ人の方々の明るさがいつも翻訳会を和やかで楽しいものにしてきているように思います。



今回は初めて翻訳会に参加くださった日本人の方もいました。誰にでも楽しくできる作業ですので、これからも興味のある方にもっと参加していただければと思っております。

報告2

～2016年ワールドコラボフェスタ～

大矢

今年のワールドコラボフェスタは10月22日～23日において、栄のオアシス21「銀河の広場」にて開催されました。

以前は久屋大通公園モチノキ広場周辺の会場でしたが台風襲来での日程調整の都合から3年以前から全天候の銀河の広場変わった経緯です。このフェスタは銀河の広場を中心にして、東海地区の国際交流・協力団体がワールドステージとブースでの出店で市民と交流いたします。又同時に久屋大通公園一帯ではワールドフードフェスタも同時開催で二日間大勢の市民がこの一帯を訪れます。キャンにとっては日ごろ交流の機会が少ない時に、市民と交流できる貴重な場所です。今回は少数民族の人たちの雑貨を販売しました。わずかの展示でしたがパネル写真を眺めながら面布、メモ紙挟マグネット、イ草の敷物などが3,750円程販売して、会の活動を紹介したりして、交流ができました。



来年度も多分10月の第4土日の開催が予想されます。市民の交流の場として来年も参加したいです。

報告3

～2016年夏の交流ツアー報告～

坂

2016年8月22日（月）から29日（月）までチェンマイ県にある山岳部少数民族出身の子どもたちのための学生寮「カサロンの家」で交流キャンプが行われました。日本からの参加者は5名でしたので、和気あいあいとした雰囲気でのんびりとしたツアーをお楽しみいただけましたと思います。

“カサロンの家”滞在初日には、寮の子どもたちのために『トンカツ』を作ってあげようということになり、車で20分ほどの大型スーパーまで出向き、豚肉の塊を8kg、パン粉、油などを大量に購入し、夕食の時間に間に合うように午後3時ころから調理を開始しました。カサロンの家と希望の家の子もたち、スタッフ、日本人を合わせると約60名、食べ盛りの子もたちの“おかわり”も考え、100枚のトンカツを2時間かけて揚げました。食糧庫にジャガイモがあったので、フライドポテトを付け合わせにと思ったのですが、こちらは芋の種類が悪かったのか、べちゃべちゃとしたフライドポテトになってしまい、ちょっと不評でした。

2日目は、「すみれ基金大学生奨学金」の学生に会うためにチェンマイから200kmほど北にあるチェンライへ移動しました。奨学生らが通っているチェンライのメーファールアン大学のゲスト用ホテルにチェックインした後、チェンライ郊外のカレン族の村を訪問し、夕方にはチェンライの街に戻り、山の上にある景色がすばらしいベトナム料理店で“すみれ奨学生”2名も合流して食事会を行いました。奨学生にはちょっとしたスピーチをしてもらい、特に看護科3年の“ナッチャン”のスピーチはとても感動的でした。彼女は9月に無事に戴帽式を終えたようです。

3日目は、夕方前までにチェンライからチェンマイのカサロンの家へ戻って、カサロンの家の子もたちとゲームをしたり一緒に夕食を作ったりして楽しく過ごしました。

4日目は、午前中にカサロンの家の子もたちが通っている学校を訪問し、日本の紹介をしたり、児童と一緒に盆踊りを踊ったりして1時間ほど交流しました。ノリのいい先生方が、用意してあった日本の浴衣を着て一緒になって踊ってくれたのがとても印象的でした。

最終日の5日目は土曜日ということもあり子どもたちも学校がお休みだったので、朝から夕方まで交流しました。シャボン玉をしたり工作をしたり折り紙で遊んだり、子どもたちは言葉が通じなくても身振り手振りで大丈夫です。今回、ツアー参加者の中に中学年の男の子がいましたが、初めのころの緊張は5日目にはすっかりなくなり、タイの子どもたちと仲良くなっていました。「若いって素晴らしい！」



とつくづく思ってしまった。この日の夜の飛行機でバンコクへ戻り、バンコクで2泊した後、無事に日本へ帰国しました。

キャンヘルプタイランドは例年、ワークキャンプと称して、建設作業を伴うキャンプを行ってきました。しかし、近年タイの学校の環境はかなり改善され教室不足等の問題は解決されています。そこで、今回は建設作業のない交流ツアーを行ってみました。中学生のお孫さんと一緒に参加された方や、ご夫婦で参加された方もおみえになり、建設作業は体力的に厳しいけどタイへのツアーに興味がある方への良いアプローチができた



と思います。また、寄付金の少なくなっている山岳部少数民族プログラムの一環として、「カサロンの家」へツアー参加費収入の中から多少の寄付が行えたことも、この交流ツアーを行ってよかった事の一つです。

また、来年も山岳民族交流ツアーを開催できたらと思っていますので、ご興味のある方は事務局までご連絡ください。

2016年8月30日

2016年交流ツアー収支報告

国内収入 (単位:円)

内容	単価	数	合計
参加費	45,000	5	225,000
		合計	225,000

国内支出 (単位:円)

内容	単価	数	合計
航空券(日本-タイ)		1	52,530
航空券(タイ国内)		1	2,090
タイ収入へ			170,380
		合計	225,000

日本収支 収入 225,000円 - 支出 225,000円 = 0円

タイ収入 (単位:バーツ)

内容	単価	数	合計
参加費			57,770
不足調整			810
		合計	58,580

タイ支出 (単位:バーツ)

内容	単価	数	合計
滞在費&寄付			50,000
チェンライホテル	800	4	3,200
24日昼食		11	1,030
24日夕食		16	3,870
25日昼食		11	480
		合計	58,580

タイ収支 収入 58,580バーツ - 支出 58,580バーツ = 0バーツ

報告4

～カンボジア支援プログラムの進捗状況～

坂



教育委員会事務所前



支援予定のタサダ小学校



成績優秀者表彰式に参加しました。



PTA も参加



表彰式に参加させていただきました。



式の後には食事会



2016年8月、タイ山岳民族交流ツアーの前に2回目のカンボジア小学校視察に行ってきました。今回も教育委員会の方とのアポイントメントをとり、学校で打ち合わせを行いました。トイレ建設のためには30万円の資金が必要ですが、皆様からのご寄付により、おおよその目途が立ったこと、来年度の支援実施の可能性などを話し合いました。タイでは多くの支援活動を行ってきましたが、カンボジアでは初めてのことで、まずは相手からの信頼を得ることが大切だと心がけ、小規模でもいいので確実に最初のトイレ支援を完了したいと考えています。その後、徐々に教室棟や図書室支援など大規模なものも行えるようにしていきたいです。もちろん奨学金支援なども視野に入れていきます。

10月31日の時点で、カンボジア支援プログラムのために集まった寄付金は約20万円になりました。あたたかいご支援ありがとうございます。引き続き目標金額の30万円に達するまで頑張りますので、よろしく願いいたします。

お知らせ

～特定非営利活動法人キャンヘルプタイランド～

皆様からのご寄付の入金先だった郵便振替口座の名義が「キャンヘルプタイランド」から「NPO キャンヘルプタイランド」と変更になりますのでご注意ください。

寄付金・会費のお振込みは…

<郵便振替口座>

口座名：NPO キャンヘルプタイランド

番 号：00280-2-43793

運営委員会

(2016年8月～2016年10月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	8月	事務所	カンボジア支援について
運営委員会	9月	事務所	交流キャンプ報告
運営委員会	10月	事務所	翻訳会について

運営委員募集中!

通常は毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

西川会長からのタイ便りにある通り、タイの国王が御逝去されました。このニュースが発表された直後には、街中で泣き崩れる人も出たようです。タイの国民は1カ月間、公務員については1年間も喪に付すそうです。現在のバンコクは地味な服装をした人ばかりで、南国の華やかさがなくなっています。

今回のことで、キャンヘルプタイランドのタイでの活動には特に大きな影響はなさそうですが、タイの経済や政治は大きな影響を受けるでしょう。しばらくは情勢の変化に注意が必要なようです。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.75>

発行 NPOキャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 201611月1日
 住所 〒450-0003
 名古屋市中村区名駅南2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 土曜の13~16時頃)
 E-mail: office@canhelp.jp
 ホームページ: http://canhelp.jp